中学校　総合的な学習の時間　部会

部会長名　校長　安藤志保美
実践者名　教諭　玉井正次郎

1　研究主題

自分の生き方を考え「生きる力」を育む総合的な学習の時間
～職業人へのインタビュー活動を通して～

2　主題設定の理由

（1）社会の要請および今日的課題から

現在わが国は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や人工知能（ＡＩ）の飛躍的進化などにより、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化しており、予測が困難な社会を迎えている。このような予測困難な社会を生きていくために必要な力である「生きる力」を育成することが求められている。

「中学校学習指導要領解説　－総合的な学習の時間編－」では、「探求的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指すものであることを明確化した。このことは、キャリア教育の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分の生き方を促す教育にもつながる。

職業人へのインタビュー活動では、自分の進路を考えるという課題を設定し、インタビュー活動や他の生徒と進路を考えることによって、「主体的、対話的な深い学び」を実現することができ、「生きる力」を育むことにつながると考えた。

（2）生徒の実態から

本校の生徒の実態として、経済的に厳しい状況にあり、生活にゆとりのない家庭が多く、家庭の教育力が弱い。また、身近な大人に学ぶべきモデルが少ないという厳しい進路環境にある。そのため「夢は持っている」のだが、その夢の実現のために、どんなことをする必要があるのかといった具体的な道筋を描き切らない。さらに、描いたとしても、その実現のために努力をするといった耐性が弱く、安易な方向に流されやすい傾向にある。そのため、学校の取り組みの中で進路をしっかり考えさせていくことは重要なことである。

3　主題の意味

（1）「自分の生き方を考え『生きる力』を育む」とは

社会にある職業とそれに必要な能力や意思と役割について、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することを通して、働くことの意義や今なぜ学習する必要があるのかを考え、広く自分の進路に役立てることである。

（2）「職業人へのインタビュー活動」とは

話を伺う職業人に対して、挨拶を行い、コミュニケーションがとれるようになること、

資料などを参考に相手にふさわしいインタビューを考え、対話ができるようになること、対話の中から働くことの意義や学習の大切さなどを考える活動である。

4　研究の目標

「自分の生き方を考え『生きる力』を育む」ために、総合的な学習の時間において、職業人へのインタビュー活動を取り入れた授業のあり方を究明する。

5　研究仮説

総合的な学習の時間において、様々な職種の大人から、多様な価値観や職業に必要な能力やその達成の過程を直接聞くことによって、自分の将来の目標や職業観・生き方に対する価値観を育成することができるだろう。

6　研究の計画(授業の計画)

(1)単元(題材等)　「職業人へのインタビュー活動」

(2)単元(題材等)の目標及び指導計画

○様々な職種の大人の話を聞くことを通して、自分の将来の「生き方」について考える。

○自分の今の能力と目標達成のために必要な能力の違いを知り、今後、意識して自分の能力を高めようとする意欲を持たせる。

○職業観・生き方に対する価値観を育成する。

月	活　動　内　容	備　考
7　月	○職業について考える ○希望の職業をシュミレーションしてみよう ・なりたい仕事や興味のある仕事の事前アンケートをとる ○「将来を考えるノート」の利用 ・中学校卒業後の進路を考える ○自分を知り、友達を知って、自分を見つめ直す	○『田川キャリア教育研究会』の方と協力し、学校にきていただく職業人をさがす。 ○それとは別に、学校の方でもさがしていく。 ○生徒は、職業に対する意識を高めていく。
8　月	○「職業人へのインタビュー」に対する希望調査をとる ・どんな職業人にインタビューをしたいか	○当日、学校にきていただく職業人を決定しておく。 ○６グループに分けて希望調査をとる。
	○オリエンテーション ・当日の流れの説明	○最低１つは、希望の職業人にインタビューが

９　月	・インタビューする職業人の発表 ○挨拶・スキルトレーニング ・失礼のない挨拶・話し方、好感をもたれる挨拶 ○相手にふさわしいインタビューを考える。調べる ○当日の動きとインタビューの練習 ・動き方・挨拶やインタビューなどの打ち合わせ ○「職業人へのインタビュー」活動 ○まとめ	できるように振り分ける。 ○希望を優先するために、学級の枠を取り払う。 ○何をインタビューするかは、ある程度決めておく。 ○生徒の一連の流れは、マニュアル化しておく。

7　研究のまとめ

昨年度までは、「田川キャリア教育研究会」と連携することで、身近でふれることのない職業も含め多くの職種の職業人を呼ぶことができた。今年度は、それにプラスする形で、地元で懸命に働き、活躍する職業人と出会わせ、「働くモデル」をまじかで見てもらいたいという思いから、学校でも独自にあたり、地元川崎町近辺で働く「職業人」も招くことができ、総計３１組の職業人を選定することができた。

きていただく職業人が決定すると、生徒に希望アンケートをとり、それをもとに生徒の振り分けを行った。その際、すべての生徒が希望した職種の人にインタビューできるわけではないので、対話活動を建設的に行えるようにするために、「その職業を選んだ理由・きっかけ」「社会の中で果たしている役割と生きがい」「その職業に就くための必要な資質や能力」など、どんな職業にも共通する項目を設定し、自分が興味のない職業の話を聞いても自分の進路が探求できるような形にしていった。また、挨拶の大切さを考えさせたりインタビューの仕方を事前に練習しておくことは、初めての人にインタビューする時の自信につながった。当日、キャンセルが２組でて、２９組で実施をした。体育館に２９組の個別ブースを設け、生徒たちは事前に振り分けられたブースに行き、１５分間インタビュー活動を行い、それを４回、計１時間のインタビュー活動を行った。事前の取り組みをにしっかり行った結果、生徒たちも意欲的に活動に参加することができた。

8　成果と今後の課題

(１)成果

○　職業だけを調べるのであれば、インターネットなどをみれば調べることができるが、実際に働いての苦労や生きがいなど、働いている人の生の声を聞くことは、同じ職業調べでも生徒の心により深く心に残すことができた。

○　多くの職業人を一堂に集めて行う活動は、１人や数人で調べ活動をするよりは、職業についての情報量が多く、進路や職業についてより深く考えるきっかけとなった。

○　進路学習をしていく中で、「働くことの大切さ」を考えさせながら、自己を見つめ、自分の適性や能力などを考えることは、「今自分が何をすべきなのか」という意識をもたせることにつながった。

○　社会には、色々な職業があり、その職業にどんな思いで働いているかを知り、また、自分がどの分野に興味があるかを考えさせることは、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることにつながっていった。

○　こういった機会を通じて、学校外の人と「挨拶」や「コミュニケーション」を取り合うことは、学校では気づかない「挨拶」の意味や必要性、社会の中での「コミュニケーション能力」の大切に気づかせることができた。

（２）課題

○　３０組近い、職業人の人を一堂に集めて話をしてもらう人集めは、学校だけの取り組みでは厳しいものがある。

○　きていただく職業人が最終的に決定するのは、３週間前ぐらいになるので、決定してから、生徒にアンケートをとり、希望に沿って振り分ける作業が大変だった。

○　本校でも、「挨拶」「掃除」「チャイム席」を合言葉に「挨拶」には力を入れてきたが、「挨拶」の声が小さいといった課題がみられた。

○　当日の活動を活発化させるために、どんな職業であっても共通した項目をあげ、インタビュー活動をさせたが、どこまで、共通項目が意識できたのか、また、それがどこまで自分の将来とつながるのかを考えきれたかは、事後活動で検証することが大切である。